

福岡市総合計画審議会
第4回 生活の質部会
会議録

日時 平成24年8月21日(火) 午後15時30分

場所 天神ビル11階 11号会議室

出席者（五十音順、敬称略）

飯盛 利康

宇治野みさゑ

尾花 康広

定村 俊満

塚原 浩一（代理人）

福嶋 明子

結城 勉

池 勝

太田 英二

熊谷 知子

竹下 輝和

中村 有里

松田 瑞恵

岩永 真一

落石 俊則

酒匂 純子

辰巳 浩

中山 郁美

森田 昌嗣

福岡市総合計画審議会

第4回 生活の質部会

〔平成24年8月21日（火）〕

開 会

1 開会

○竹下部会長 定刻になりましたので、ただいまから第4回目の生活の質部会を始めさせていただきます。

前回、3回目は大変活発なご意見をいただきまして、ありがとうございました。第4回目はいよいよ集約だと思っていますので、どうぞよろしくお願ひします。

それでは、まず初めに、事務局から本日の資料についてのご説明をいただきます。よろしくお願ひします。

○事務局（藤本） それでは、配付させていただいている資料をご説明させていただきます。

まず次第がございます。

その下の資料1が、今後の審議スケジュールという毎回お配りしているものです。本日が部会の4回目ということで、本日終わりましたら第2回総会でパブリックコメントの案を決定するというスケジュールになっております。

その次が資料2で、こちらが基本構想と基本計画の修正したものでございます。

資料3が、基本計画の中の空間構成目標についてでございます。

資料4が、基本計画の素案の中の区のまちづくりの目標です。

資料5が、区の計画についての経緯等ということで、A4の1枚物としてまとめさせていただきます。

それから、その後ろのほうは、参考といたしまして、熊谷委員、江頭委員、中山委員から後日いただいた資料でございます。これらについては、可能なところは、後ほどご説明する修正案に入れさせていただきます。全体のボリュームが多いので、個別にどこに反映したというご説明は省略させていただきます。

最後にもう一枚、吉田委員からいただいているものについては、本日来れないのでということで、ご意見をいただいているところで、まだ反映はしておりません。

以上でございます。

○竹下部会長 どうもありがとうございました。資料配付についてはよろしいでしょうか。

それでは審議に入りますが、その前に私からお願ひがあります。資料1を再度見てい

ただけませんか。

本日の部会はパブコメ原案の直前部会でございます、非常に重要だと思っております。一応パブコメのための原案を今日固めたいということで、具体的な問題提起といえますか、一つ一つ修正方向を明確にしながら進んでいきたいと思っております。ただ、パブコメ後も2回の部会が用意されておりますので、パブコメのご提案等を受けて、部会のほうで再度議論し、最終案をつくるというふうを考えております。

以上よろしく申し上げます。

2 審議（基本構想、基本計画）

○竹下部会長 それでは、審議に入ります。

まず、基本構想と基本計画につきまして事務局からご説明をいただきます。

○事務局（藤本） それでは、事務局のほうから資料2の基本構想・基本計画について修正した部分をご説明させていただきます。

まず1枚めくっていただきまして右側、目次がございます。大きな修正として、6を「基本計画の前提」としております。以前は総論の「基本計画の概要」の後に「基本計画の前提」を入れておりましたが、少し後のほうでいいたろうというご意見がございましたので、総論の一番最後に移動させているところでございます。

そして、次に基本構想でございますが、2ページ、3ページをお願いいたします。

都市像の四つのテーマについて、一つにまとめたものということでございます。今決めなくてもいいのではないかとご意見もいただいておりますが、成長の部会でのご意見も踏まえまして、一つの案を提案させていただいているところでございます。

そして3ページ、都市像の2のところに「豊かな自然を大切に守り」と、ご意見を踏まえて入れさせていただいております。

次に7ページ、「都市経営の基本戦略」ということで、前提を後ろにやりました関係上、基本戦略がここに出てきております。

また、広域的な役割ということで総論の現状と課題の中に出てきていたところが、「都市経営の基本戦略」と中身が重なっておりましたので、それを合わせた形で整理しております。

「都市経営の基本戦略」として「人と環境と都市活力の調和がとれたアジアの創造都市をめざす」ということですが、この中で「アジアの創造都市」の定義をもう少しきちんと書くようにというご意見がございました。都市圏の中で都市圏一体となって取り組むこと、また、福岡市が世界中から人を引きつけている魅力を生かして、多様な人材の創造力で生活の価値や経済的な価値を創造し、生活の質の向上と都市の成長を循環させ、

アジアに貢献し、ともに成長していくこと、これを「アジアの創造都市」だと定義づけ、「人と環境と都市活力の調和がとれたアジアの創造都市をめざす」ことのご説明を入れているところでございます。

8ページと9ページをお願いいたします。

8ページは、「地域コミュニティの自律」というのはおかしいだろうということで、「自律」を省きました。あと、教育と人材育成を分けたほうがいいだろうというご意見を受けまして、分けております。それから、「働く場」についてのご指摘もありましたので、「働き、活躍できる環境」としてしております。

9ページは、「広域的な役割」を少し整理してございまして、都市圏で取り組むことが大切であることを受けて、九州における役割、日本における役割、アジアにおける役割というふうに、それぞれこういった役割を担っていきますとしております。以前は、求められる役割という位置づけだったのを、戦略として、こういう役割を担っていきますということで、ここに持ってきているところでございます。

10ページ、11ページをお願いいたします。

こちらについては、変えたのは区のまちづくりの目標ですが、これは後ほど区のまちづくりの目標についてご説明する際に、改めてご説明させていただこうと思っております。11ページについては、変えたところはございません。

12ページ以降に「基本計画の前提」を持ってきてございまして、福岡市のあゆみ、人口、高齢化・コミュニティ等々を入れております。

変えている部分は、27ページのアジアとのネットワークの部分です。博多港等についての記述をもう少し入れてはというご意見が、特に都市の成長部会のほうでございましたので、こちらを追加しているところでございます。

ここまでの基本計画の総論でございます。

28ページからが計画の各論でございます。こちらで大きい変更は、「めざす姿」の一番下に、「めざす姿をあらわす指標」ということで、数字を入れたことでございます。前回の部会の議論の中で、成果指標が少し細かいのではないかと、大きなくくりで示すような指標があったほうがいいのではないかとというご意見が出ました。それぞれの個別の施策については、ある程度具体的な指標がないと、いろいろな形で進めるのが難しいところもございまして、「めざす姿」の中に成果指標ではなく「めざす姿をあらわす指標」として、上に文章だけで書いてあるものを数字で補足するような指標を、それぞれめざす姿として一つずつ設定しているところでございます。

29ページについては、「教育環境を整備」という文言を、ご指摘がございましたので追加しています。

それから30ページ、31ページは、委員から、施策とその指標の間に、実際に何をやっ

ていくか、施策検討用資料に書いていたものをここに入れるべきだというご意見がございました。都市の成長部会でも同じようなご指摘がございました。ここについては、その方向で検討していこうとは思いますが、ただ、ここはまだご議論いただいていないところで、今日急に入れてまとめることは難しいので、パブリックコメントまではこの状態でさせていただきます。そして、パブリックコメントでそれぞれの施策についてのご意見もいただくこととなりますので、それも踏まえて、「実際に何々をやっていきます」という文章をこの下に二、三行ずつ入れていくことで検討していきたいと考えております。

それから32ページは、「めざす姿をあらわす指標」ということで、「地域住民の連帯感の強さに対する満足度」を挙げております。

34ページは目標3では、「犯罪の少なさに対する満足度」を挙げております。あと、防災についてのご指摘が都市の成長部会でもございましたので、追加しているところです。

それから38ページの目標4では、「めざす姿をあらわす指標」として、「自然環境の豊かさに対する満足度」を追加しているところでございます。

それから目標5は、都市の成長部会のほうの関係で、指標として「入込観光客数」を挙げております。

そして46ページの目標6の「めざす姿」について、地場中小企業についての記述に「イノベーション」という言葉を追加しております。

そして、48ページの目標7では、「有業者数に占める起業者の割合」を「めざす姿をあらわす指標」として入れているところです。

50ページでは、「福岡空港・博多港の貿易額」を入れております。

このような形で修正したところでございます。資料2についての説明は以上でございます。

○竹下部会長 それでは、ページをめくりながら進めさせていただきます。最後に全体にわたってご意見があれば、また全体の討議をしたいと思っておりますので、最初はこのペーパーに従って進めます。

まず、今回の総合計画の特徴として基本構想から基本計画ということで、最初に基本構想につきましてご意見どうでしょうか。2ページから3ページまでです。

はい、お願いします。

○委員

2回ほどお休みしましたので議論についていけないかもしれませんが、（配布された意見・質問票で）委員からもご指摘がっておりますけれども、都市像1「自律し

た市民が支え合い心豊かに生きる都市」という表現についてです。第1回の生活の質部会で、私も若干この文章を修正していただきたいとお願いして、その部分は確かに修正がなされているんですけども、まず表題で「自律した市民が」と、自律していることをまず求めていらっしゃるのとは何か趣旨があるのでしょうか。例えば福岡市の職員が今、飲酒運転のことでいろいろ問題が起きていますが、そういう意味で自律していないということで、市民が自律するのが先決だみたいな発想があるのかなという気もするんですけども。

私としては、自律することをまず求めるのではなく、委員が書かれている趣旨に強く賛同いたしますが、その辺はいかがでしょうか。

○竹下部会長 どうぞ。

○事務局（藤本） 「自律」につきましては、現在の福岡市基本構想の中にも「自律し優しさを共有する市民の都市」ということで掲げられております。

基本的には、市民の都市ということを考えるときに、まず一人ひとりが自らを律する、一人ひとりがそういう人になった上で、それぞれの地域社会をつくっていくとか、いろいろなことをしようという、基本的なスタンスというか、考え方として、一人ひとりの市民が自律していることが大切だというものです。このコンセプトにつきましては、いいというご評価も、振り返りの中で、いろいろなところでいただいたりもしているために、そのまま残らせていただいているところでございます。

○竹下部会長 どなたか、ほかにありませんか。

私なんか素直に受け取って、「自律した市民」というのは、なかなかいいのかなと思ったりしていたんですけども。具体的に何が問題なんですかね。

○委員 すみません、第1回るときにすべて目を通せない状況で発言をさせていただいたので、十分なお説明ができなかったと思いますけれども、「自らを律し」というふうに「律する」が先に来ることにとっても抵抗があるんですね。みんなが支え合って、委員が書かれているとおり、人権が尊重されている環境が整って初めて、みんなが自律できるのではないかというふうな順番の立て方ですね。

○竹下部会長 時間軸ですね。

○委員 はい。先に「市民生活が豊かであるためには、まず市民一人ひとりが自らを律

し」と、「律する」ことが先に出てくることに、ものすごく抵抗があるんですね。「自分を律しなさいよ、自律しなさいよ」といった押しつけではないと考え、第1回のときも発言させていただきました。十分に検討できないまま今日参りましたから、ちょっと議論がさかのぼるのかなという気がするんですけども、委員が出されている意見に、そのとおりだと私も共感したものですから。事務局がご説明されているように、福岡市のもともとの目標で、それに沿っていて、これは非常に評価の高い立て方だと言われれば、そう考えることもできるのかなと思いますけれども。まあ私の弁護士の発想ですね。まずは基本的人権の尊重、尊重されることによって、みんなが豊かに支え合っているんだと、どうしてもそこにこだわってしまって、発言させていただいております。

○竹下部会長 委員、お名前が出ていますので、何か補足があれば。

○委員 時間の関係もあったので、前回の締め切りをちょっと過ぎたんですが、一応、文書で出させていただきます。

今のご意見に私も賛同します。今世紀に入ってから、とりわけ自己責任論が強調され始めてきている流れが、一つここに入っているのかなと感じるんです。「ジリツ」も、「自立」と「自律」と使い分けされているようですけれども。

やはり自己責任というニュアンスであれば、それが冒頭、1番目の最初に出てくることに私も大変違和感を感じています。それは大前提であって、住みやすいまちづくりが進む中で、そこに生活する市民の自覚なり責任なりが高まってくるんだと思います。ですから、この「自律」という表現を削除してはどうかという意見を私は出させていただきましたという経緯がございます。計画なり構想は、行政がイニシアチブをとりながら市民の意見を聞いてつくるもので、そこに行政の意思が明確に打ち出されるものであるべきだろうと思うので、そこに市民の姿が最初に出てくることに違和感を感じています。

それとはちょっと違った観点での質問です。その上の「案」が今回示されましたが、「アジアの交流拠点都市」という表現があります。また、別なところでは、その一番最後、3ページに「拠点都市」とあります。「交流拠点」と「拠点」は似て非なるものではないかと思いますが、事務局としてはどのようにお考えか1点質問させていただきたいと思います。

○竹下部会長 どうぞ。

○事務局（藤本） 今のお話で2点だけ。

1点目、市民の姿を行政計画の中でということについてです。基本構想は、市民や事

業者の方みんなでめざす福岡市の将来像で、基本計画は、市としてこうやっていきますという行政計画です。ですから、おっしゃったような視点は、基本計画はそうだろうなというところではございます。基本構想は、こういう地域になったらいいという、みんなが共有するまちの姿で、そこでは当然、他の方の人権を尊重することも含めて、一人ひとり自律した市民がそういうことをしていくんだという姿として書かせていただいているところではございます。

もう一点、「交流拠点都市」と「拠点都市」についてです。4番目は、活力ある拠点ということで「拠点都市」と書いております。都市像全体のキャッチフレーズで書かせていただいているのは、この四つの都市像を全部含めた形、交流することも含め、少し広い意味の拠点都市ということで、全体をくくった表現には「交流拠点都市」という言葉を使わせていただいているところではございます。

○竹下部会長 はい、どうぞ。

○委員 その説明自体が何かずれてしまっていないですか。言われているのは、市民に対しての責任をどうお考えかという話だと思うんですよ。私は単純に読むから、順番は、市民の自律があって、それを支えるのが行政の役割、役所の役割だととなります。一人ひとりの人権、自律、それを支えていくためにどうすればいいかということで基本構想は成り立っていくはずですが、そこに責任が明記されているのではないか、責任ということを感じられるのではないかというご意見だと思うんですよ。

どっちが先かといえば人権であり自律であって、この書き方自体、責任を求めているものでは決してないでしょう？ならば行政としても、「責任を求めているわけではありません」と先に述べられるべきだと思いますが、いかがでしょうか。

○竹下部会長 もう一回ずつやるようにしましょう。どうぞ。

○事務局（藤本） おっしゃるとおり、責任を求めてここに書いているのではございません。

○竹下部会長 今回の総合計画のポイントだと思うんですね。都市像から計画づくりというのは大変ユニークな展開だと思って、僕は非常に評価しているんです。その順番とか使っている文言とかは注意深く扱わないといけないとは思いますが。

ほかに反論、どうでしょうか。はい、お願いします。

○委員 反論ではないんですけども、これまでの検討の経緯は、ここの文章については、まず自分のことは自分でやっていきたいと思いますという「自助」、その次に地域のことを含めて支え合っていきたいと思いますという「共助」、最後に福岡市が行政としてこういうふうに行っているという「公助」ということで、自助・共助・公助のきちんとした時系列が成り立っているのでもいいんじゃないでしょうかというものだったと思うんですよ。それを思い出しましたので、言わせていただきました。

○竹下部会長 ほかにいかがでしょうか。はい。

○委員 いや、今の件は、それで取りまとめがされたわけではありません。それぞれの委員さんからそういう発想も出されましたが、私は、自助が冒頭に来るのではなく、公助という行政の役割を明確にすべきだという意見も述べております。それで取りまとめられるとちょっと遺憾ですので、意見を述べておきたいと思います。

○竹下部会長 ほかにどうでしょう。これこそパブコメ後にまた議論したほうがいいのではないかと私は判断しますので、一応原案のままで走って、パブコメを受けて、ここで再度議論することにしたいと思いますが、いかがでしょうか。

〔「異議なし」の声あり〕

○竹下部会長 それでは、そういう形で進めます。

ほかにご意見はいかがでしょう。2ページ、3ページはよろしいですか。

〔「意義なし」の声あり〕

○竹下部会長 そうしますと、次に行きたいと思います。かなり目次立てが変わりまして、戦略が前のほうに来たことにつきましては、どうでしょうか。6ページから11ページ、総論の部分です。

7ページの図は大変な力作だと思いますが、さらにデザインをよくしてください。今回の大特徴だと思います。

いかがでしょう。よろしいでしょうか。

○委員（代理人）

9ページの「日本における役割」に二つ丸がついていて、下の丸の「首都機能の」というところがございます。これは、7月末だったと記憶していますが、内閣府から首都機能について報告が出まして、その中に書いてある文言としては、ここに書いてある「首都機能の代替拠点の候補」という表現ぶりではなかったのではないかと思います。

霞ヶ関が被災した場合でも、首都圏の機能はあくまでも立川の防災拠点で自律的に賄

っていきます、ただそれでも全体を取り仕切る行政力が確保できない場合には、国の地方支分部局が展開している各地方の政令市、福岡市とかも入りますし、大阪市の名前も出ていましたけれども、それらで首都の行政機能を補完していきますということで、たしか代替拠点という文言は使われていなかったと思います。そこは報告書を確認していただいて、それにのっとっていただければいいと思います。あと、その前後は、福岡市さんの考え方でございますのでいいと思いますが、引用していると思われる部分は、参照して確認をお願いいたします。

以上です。

○竹下部会長 具体的なご指摘ありがとうございます。それでは確認をとるということでお願いします。

それでは、ほかにいかがでしょうか。はい、お願いします。

○委員 あまり余計なことは言いたくないんですが、載せてもらえなかったのも、必要ないという判断をされたんでしょうけれども、この九州・日本の役割というところには、聞こえのいい、都合のいいことばかりが載っていると思います。今回の東北の大震災を経て、福岡は大都市なんですから、震災も想定した、災害拠点基地までいなくても、その役割を果たしますという文言は、お金のかからない範囲での決意ぐらいいは載せるべきではないかのご意見させていただいたのですけれども、いかがでしょうか。

○事務局（藤本） すみません、そこはまだ対応できておりませんでした。入れる方向で検討したいと思います。

○竹下部会長 ぜひお願いします。

それでは、ほかにいかがでしょう。11ページまでよろしいでしょうか。

〔「意義なし」の声あり〕

○竹下部会長 12ページから27ページまでは、計画の前提になるいろいろなデータがありますが、はい、お願いします。

○委員 その前の8ページの③「人材の育成と集積」の最初の黒丸についてです。ざっと読んでみて、ちょっと文章がおかしいと思いました。「次代を担う子供たちが夢を持って自ら行動する人材となるよう教育に取り組みます」。これは「教育環境を整えます」とかいう意味合いではないかと思うんですけれども、教育内容にこのことを求めていると誤解されてしまうと思うので。

○竹下部会長 ちょっと言い過ぎだということですね。どうかな。教育。

○事務局（藤本） これだけが教育内容と誤解されるような表現になっているかと思しますので、少し改めたいと思います。

○竹下部会長 ありがとうございます。

ほかにどうでしょうか。はい、お願いします。

○委員 文書で出していますが、残念ながらほとんど入っておりませんので。

11ページの「行政運営の基本姿勢」のところですか。時間の関係でペーパーにしてもらっている分を委員各位はご覧になっていただければと思います。行政運営、行財政運営、ここがこれから10年、20年を考えたときに、ほんとうに重要な部分だと思いますし、市民に行政運営にいかにかかわっていただけるのか、またかかわっていただける仕組みをつくるのかも含めて意見を述べておりますが、原案のとおりになっております。今後パブコメもされると思いますけれども、パブコメの方法も含めてですね、市民に大事な策定にかかわっていただく最大限の努力を当局にはお願いしたいと思います。また、皆さんの意見も、聞かせていただければありがたいと思っております。

○竹下部会長 ほかにありますでしょうか。11ページまでよろしいでしょうか。

〔「異議なし」の声あり〕

○竹下部会長 それでは、12ページ以降27ページまででございます。

はい、お願いします。

○委員

12 ページからのところは、タイトルが「基本計画の前提」となっているんですけども、その後のデータを見ていきますと、人口の将来予測、あるいは、その後ずっと将来推計値が出てきますよね。例えば25 ページでは2020年の予測値が出ています。これをすべて前提とするのは少しどうなのかなという気がします。これを前提として、この計画は立てるんだということでしょうか。そうでなければ、これは「前提」という言葉ではなく、「基本計画の背景」「取り巻く環境」といった言葉でもいいのかなという気がするんですが、そのあたり、どのようにお考えでしょうか。

○竹下部会長 どうぞ。

○事務局（藤本） 事務局といたしましては、当初、計画を検討する前提ということで資料をまとめましたが、おっしゃるように、ここを「背景」にしたらよくないというところでは特にございません。人口推計とかはある程度前提的なところもございますが、日本の成長率などは、確かに前提というよりは背景というか、現在の状況に近いかと思えますので、そこは「背景」でもいいかと思えます。ちょっと検討させていただきます。

○竹下部会長 どうも、ご指摘ありがとうございます。「背景」でいいかもわからんね。要するに、どれくらい前提ができていくかということだろうと思えますけれども。ほかにいかがでしょう。どうぞ、お願いします。

○定村副部会長 先ほども出ましたが、キーワードとして「アジアの交流拠点都市」「アジアの拠点都市」「アジアの創造都市」と三つよく似た言葉が出るんですよね。それぞれ、読み込めば中身は違うんですが、これの整理の仕方です。何とか図解等でできませんか。さらっと見ると、どういうプライオリティーなのかも含めて、ちょっとわかりにくくて、混乱する気がいたします。

○竹下部会長 いかがでしょう。

○事務局（藤本） 少し考えます。

○竹下部会長 それでは、よろしくをお願いします。

ほかにいかがでしょう。よろしいでしょうか。

〔「異議なし」の声あり〕

○竹下部会長 何かちょっと不安になりますので、28ページ、目標1から見ていただきたいと思えます。目標1に関してどうでしょう。はい、お願いします。

○委員

目標1に限らないんですけども、今回、「めざす姿をあらわす指標」を入れていただいておりますが、これも結局は、その後の成果指標と同じように数字が入っているわけで、「めざす姿をあらわす指標」の目標値はないのでしょうか。

もう一つは、よく見ますと、この「めざす姿をあらわす指標」は、必ずしも目標全体をあらわすような指標になっていないところもあります。これはこの部会の守備範囲をちょっと超えるかもしれませんけれども、目標8などは、福岡空港・博多港の貿易額を

もって「めざす姿をあらわす指標」としておりました、これは51ページの施策8-3の指標項目の一つです。ということで、全体をあらわす指標になっていない部分があるんですけども、その辺は問題ないのでしょうか。どのようにお考えか教えてください。

○竹下部会長 それでは、よろしく申し上げます。

○事務局（藤本） 「めざす姿をあらわす指標」につきましては、一つの目標に対してそれがどうなっているかが文章だけではわかりにくいので、数字で補完するという事です。全体をカバーするとなかなか1つの数字ではあわせなくて、どうしても5個とか10個とか、たくさん並べなければいけないので、その文章と数字とをあわせて「めざす姿」として見ていただくということで、このような形をご提案させていただいています。

あと、目標につきましては、個別の施策の成果については、目標を持って実際やっていくということですが、全体については、こういう状態になっているという姿の一つです。ここは特に目標は定めずに、例えば2年後とか5年後とかに評価する際に、「この数字はこうなっています」と、毎年その数字を出してご説明する、としています。特に成長の指標などは、国全体の経済の上がり下がりに対して、実数で目標を立てたほうがいいのか、それとも国に対する比率で立てたほうがいいのか、その時々によっていろいろ変わります。そのときの周辺状況との関係で、「これが上がっているからよい」「上がっていないけれども、国に比べて差は開いていないからよい」とか、この数字を参考に「めざす姿」を見るということで、目標を定めない形で、今はさせていただいているところでございます。

○竹下部会長 私どもの生活の質部会の前に都市の成長部会が行われていると思いますが、この点について何かご意見が出ているようでしたら、ご紹介いただけませんか。

○事務局（藤本） 指標については個別に、目標7の「めざす姿をあらわす指標」はこれだけではよくないのではないかとかいうご意見は出ております。

○竹下部会長 パブコメ原案として、理解できるかどうかの一つ必要ですよ。もう少し説明が要りそうな感じがしているんですが。

○事務局（藤本） この「めざす姿をあらわす指標」がこういうものと、今私が口頭でご説明を差し上げたものを、実際に紙だけで見ていただくことになるので、各論の最初のところに、少し「この項目立てがこうで、この数字はこういうものです」という解

説を追加したいと思います。

○竹下部会長 ぜひそうしてください。

では、ほかにいかがでしょうか。はい、お願いします。

○委員 固執するようですみません、これでこの意見は最後にしたいと思うんですけども、施策1-2の2つ目の「性別による」という項目は、個人の思想にかかわる問題だと思うので、別の指標に変えたほうがいいと思っています。熊谷委員が今日提出されている中に「202030」という話もありますので、そうしたリーダーの数などにしたほうがいいのではないかと思います。それで、どうしてもこの指標を使いたいということであれば、素案の文章どおりにしていただきたいと思っています。こういう書き方になってしまうと、何が問題なのか、多分パブコメにかけたときにわからないと思うからです。初めの素案のとおり、「男は仕事、女は家庭という考え方に」という文面に変えてもらって、それで皆さんに考えていただければと思います。

もう一つ、先ほどおっしゃった目標1の指標である「健康で普通に生活している60歳」という、この「普通」とはどのような言葉でしょうか。

以上です。

○竹下部会長 では、最後からいきましょうかね。

○事務局（藤本） 「健康で普通に生活している」というのは、アンケート調査をずっとやっているものです。福岡市の高齢者実態調査をしている中で、「健康で普通に生活している人」ということですが、アンケート項目はわかりますか。

○事務局（保健福祉局） 失礼します、保健福祉局でございます。

今、「健康で普通に生活している」割合は44%となっておりますが、これは22年度に実施いたしました調査で、全般的な健康状態をお尋ねした設問の1つです。選択肢としては、「健康で普通に生活している」「何らかの病気等はあるが、日常生活は自立、外出も一人で可」「家の中では自立、外出は要介護」「日中もベッドの上が主体、」「一日中ベッドの上」といったものです。全般的な健康状態、それに伴う生活の対応についてお尋ねしたものでございまして、一番健康な状態で、日常生活全般も自分でおできになる方という意味合いの分を抜き出したのが44%ということでございます。

以上でございます。

○竹下部会長 いかがでしょうか。

○委員 よくわかりました。ただ、こうやって一言出てくると、ちょっと唐突な感じがしました。私自身も普通の生活を送っているとは思えないような日々なんですけど。「普通」ってちょっとひっかかると思います。補足で書いていただくとか、何か工夫されたらいいのかと思います。

以上です。

○竹下部会長 ご指摘のように、ちょっと「普通」というのは。はい、どうもありがとうございます。

○事務局（藤本） 指標が少しわかりやすくなるような補足は考えたいと思います。

○竹下部会長 28ページ、29ページは、ほかによろしいですか。

〔「異議なし」の声あり〕

○竹下部会長 30、31。委員ご指摘の100%論（第3回生活の質部会であった、人権や男女共同参画の成果指標の目標値は、100%にすべきという意見）のやつですが。まあ、パブコメ後がいいかなという判断を私もしたんですけども。いかがでしょうか。よろしいですか。

〔「異議なし」の声あり〕

○竹下部会長 それでは、32ページ、目標2のところですが。よろしいですか。

はい、どうぞ、お願いします。

○委員 ちょっとひねくれているのかもしれないんですけども、32ページの「めざす姿をあらわす指標」の「地域住民の連帯感の強さに対する満足度」についてです。これは、おそらくアンケート調査の結果なので、なかなか変えられないと思うんですが、市民ニーズとして、必ずしも全員が連帯感の強さをよしとはしていないのではないかという気がするんですね。最近、集合住宅でマンションに住みたいという方々の中には、あまり地域に関わりを持ちたくないからという方もいらっしゃると思いますし、この満足度が高いことが、福岡市の求める地域住民の連帯感の強さとリンクしない可能性があるんですね。

まあ、福岡市の戦略として地域住民の連帯感を強くしたい、これはいいと思うんですが、この指標が、必ずしもそれをあらわしていない可能性があると思うんです。そのあたりいかがでしょうか。

○竹下部会長 どうでしょう。

○事務局（藤本） この指標については、なかなか設定が難しいところもございます。これは福岡市の都市環境に関する満足度ということで、福岡市全般の市民意識調査で満足度調査をしている、いろいろな項目の中の、大きく区切った中の一つとして、「地域住民の連帯感の強さ」を「満足している点」として挙げている方が48.1%で、「不満である点」として挙げられている方が30.2%となっております。どんぴしゃではないかもしれませんが、そういった形で継続して今までも調査していて、今後も調査していくため傾向もわかりやすいので、今回はこれを案としてご提案させていただいたところで

○竹下部会長 よろしいですか。はい、どうぞ。

○委員 もし、この指標をそのまま使われて今後検証されるときには、この指標にはそういった意味合いが含まれていると、少しお含みいただいております。よろしいのではないかと思います。

これはコメントでございます。以上です。

○竹下部会長 ありがとうございます。

はい、どうぞ。お願いします。

○委員 指標の施策2-1、地域コミュニティの活性化のところ、
「自治会・町内会に加入している世帯の割合」が指標となっておりますが、これは町内会費を納めていればこれということですか。

○事務局（藤本） はい。

○委員 ということですね。であるならば、町内会費を納めていることが地域コミュニティの活性化につながるのかということ、またちょっと意味が違う気がするんです。おそらく地域コミュニティの活性化は、それこそ課題①に書いてあるように、コミュニティへの帰属意識の希薄化、活動の担い手の不足・固定化、加入率の低下ということではないでしょうか。この指標は町内会費の話ではないかと思っておりますので、これはもうちょっと違う指標のほうがいいのではないかと思っております。行政として、福岡市としてコミュニテ

ィを考えるとときの指標にしては、ちょっとスポット的な話にならないかという心配をしますので、いい指標があれば、ぜひ切りかえていただきますようお願いいたします。

以上です。

○竹下部会長 では、要望として受け取ります。

ほかにいかがでしょうか。はい、お願いします。

○委員

今の話とちょっと似ているんですが、33 ページの施策2-4に「NPO・ボランティア活動の活性化」とありますが、この指標の中の「NPO・ボランティアセンター年間利用者数」は、果たしてNPO・ボランティア活動の活性化の指標なのか、かなり疑問です。というのも、僕自身がNPO・ボランティア活動をやっていますが、センターの利用はほとんどしていないからです。先ほどの話と同じで、この現状値、目標値が活性化にほんとうにつながるのかなと思います。まずは「NPOやボランティア活動に参加したことがありますか」といった項目になってくるのではないのでしょうか。

また、NPOとボランティアを並列して並べているのことにかなり違和感があります。

以上です。

○竹下部会長 これは宿題だな。ご指摘のとおりだと思います。

それでは、ほかにいかがでしょうか。34ページ、35ページ、目標3。よろしいですか。

〔「意義なし」の声あり〕

○竹下部会長 では、36、37。

〔「意義なし」の声あり〕

○竹下部会長 それでは、38、39。

〔「意義なし」の声あり〕

○竹下部会長 40、41。いかがでしょうか、よろしいですか。

〔「意義なし」の声あり〕

○竹下部会長 それでは、42ページからは私どもの部会のほうではないんですが、終わりの52ページまで、何かご指摘がありましたら。はい、どうぞ。

○委員 47ページの施策6-4、「農林水産業とその関連ビジネスの振興」の指標項目が「農業生産額」「漁業生産額」だけなので、ビジネスが振興しているかがわからないのではないのでしょうか。今、農商工連携とか、6次産業化とか言っていますよね。

こういった部分で商品開発がどれだけ進んでいるのかとか、農業生産法人がどのくらい増えたのかとか、まあ規制緩和との関係もあるかもしれませんが、今後10年間でどういう施策を、ほんとうに雇用の創出として、第1次産業から第2次・第3次と関連して広げていくのかの大事な指標になるので、ここはもうちょっと工夫したほうがいいということ意見を言わせていただきます。

○竹下部会長 ご指摘のとおりですね。

○事務局（藤本） 成長の部会でもご意見をいただいていたので、考えます。

○竹下部会長 そうですか。わかりました。

では、ほかにいかがでしょうか。はい、どうぞ。

○委員 全般的なことで。成果指標の関係で、今日のご出席されていらっしゃらないんですけども、副会長のほうから、成果指標には、アウトプット（結果）とアウトカム（成果）があるということでしたが、いただいた資料では、多分、意識系とかデータ系とかいうことで分かれているのかもしれないですけども、その辺の整理は今回されているのかなという、そもそもの部分についてです。

それと、今回、総合計画審議会の委員になったので、東京の荒川区に行ってきたんですが、あそこは皆さんもご存じのように、成果指標をアウトプットからアウトカムへ、そしてアウトカムをさらに進めて、市民の幸福実感と、実感まで高めているんですね。そういった先進的な取り組みを見てきてしまったものですから、この成果指標というのは非常に大事な、このまま進めてしまっているのかなとちょっと心配なんです。けれども、時間がありませんし、タイムスケジュールがありますので、その辺の整理についてはどういう考えを持っていらっしゃるか聞かせていただければ幸いです。

○竹下部会長 どうぞ、お願いします。

○事務局（藤本） 成果指標につきましては、基本的にはその施策をできるだけ広くカバーするようなアウトカム（成果）をあらわすものを出したいというのが最初でございます。その成果についても、できればデータとして客観的な数字があるものを優先して出そうとしております。それが無いものについては、アンケート調査による意識系も含めて、アウトカムという形でできないかということでやっております。

ただ、アウトカムでなかなか適切なものがないものについては、仕方なくということ

ですが、アウトプットという形で、何をどれだけやりましたという形を出しているものもございます。ただ、アウトプットになっているものはそうたくさんはありません。10個未満ぐらいだと思います。今そこをきちんと整理しようとは思っておりますが、おおむねアウトカムにはなっていると考えているところでございます。

お金をどれだけでもかけて調査すれば、すべてアウトカムでもできるんですが、なかなか毎年大規模な調査をやるわけにもいかないものもございまして、どうしても既存のデータがないとか、資料を集めるのにお金がかかるものまでは、全部望ましい形にできないものもございまして。できるだけ理想に近づける形では選んでいますけれども、そうでないものも少し含まれているところでございます。

○竹下部会長 はい、どうぞ。

○委員 よくわかりました。ただ、何もかもアウトカムにしなければいけないというわけではありません。バランスは大事だと思いますので。アウトカムとか、さっき言った市民の幸福実感まで高めてしまうと、どうしても主観的なものもありますから、客観的にどれだけ進んでいるか、先ほどデータ系と言われましたけれども、それも大事だと思います。バランス感覚は大事であるということで、意見として言わせていただきます。

○竹下部会長 貴重な意見ありがとうございました。

はい、どうぞ。

○委員

目標8としてアジアのモデル都市の目標があるんですけども、構想の頭でも「アジアの交流拠点」、その次の戦略では「アジアの創造都市」と「アジア」が冠についているのに対して、このアジアにおける拠点、もしくは創造都市としての成果指標というものをごとういうふうに位置づけているのでしょうか。ビジネス交流の促進、ゲートウェイとありますが、要はアジアの拠点化の指標がどこにあらわれているのかです。アジアが冒頭に強く出ているのに対して、個別の目標の中ではアジアというのは最後に少し出てくるだけで、ここからアジアの拠点をめざしていることが読み取れないんですが。

○竹下部会長 どうぞ。

○事務局（藤本） 構想の全体にかかっている「アジアの交流拠点」なり、計画の戦略のところの「アジアの創造拠点」については、当然、アジアとの関係だけではなく、創造

都市、市民生活、暮らしの質、新しい仕事を興す、そういったこととアジアとの関係を含めた形で、「アジアの創造拠点」「アジアの交流拠点」という言い方をしております。

すべての目標が掲げているものを合わせたものが大きな構想なりの指標となりますので、構想に書いている「アジアの交流拠点都市」を1つであらわす数字があるというよりは、個別に掲げてある8つの目標全部が達成された状態が、構想がめざす「アジアの交流拠点都市」であるとなります。また、そこに行く10年間で、個別の具体的な創造的活動として動いている状態が「アジアの創造都市」ということなので、一つであらわす数字は置いていないかなというところではあります。

あと、先ほどご指摘もあったように、具体的に目標8の数字として、もう少しいいものがないかということが当然あるんですけども、アジアとの関係は、貿易額と人の流れぐらいしか数字としては出せるものはありません。ただ、貿易額とか人流というのは、どんどん大きく増えてきていますので、大きく言ってアジアとの関係ということであれば、ゲートウェイのほうに掲げている数字などもあわせて見ていただくという形かなと思います。

○竹下部会長 どうぞ。

○委員 ささまざまなアジアの拠点都市があるかと思えます。たしか、国際的なレベルでの福岡市のランクづけみたいなものが今あったかと思うんですけども、例えばそういったもので上位何位までに入るんだとかいった総合力の評価の大きな指標がないと、福岡市はアジアの拠点だと言っているかもしれないが、ほんとうにアジアの人たちがそう思っているのかということがあります。実態と位置づけが少しずれている感があるので、難しいかもしれませんが、その辺のグローバルな指標は必要ないのかなと思っています。

○竹下部会長 どうぞ。

○事務局（藤本） 21ページ、イギリスの情報誌『モノクル』の25都市の中でランキングがだんだん上がって、今12位になっていますとありまして、これが一つ、国際的な評価の数字としてあるんですが、この『モノクル』の数字を上げることを目標にしますという形で設定するのがなかなか難しいところもございます。あと、森記念財団がされたものなど、いろいろと国際的な評価はあるんですが、例えば国ベース、都市ベースで統計が出ている数字で、我々もいろいろと比較してみようとしたんですが、国によって統計が違うものですから、なかなかうまくできませんでした。ほんとうは各国や各都市が出

している統計数字などで作りたいとは思っているんですが、技術的にできずにいて、そこは少し検討課題かなとは思いますが。

○竹下部会長 どうもありがとうございました。ほかにいかがでしょうか。はい、どうぞ。

○委員 今回の拠点の話とまた関連するんですけども、当初から申し上げているように、福岡市が拠点になる、あるいは交流拠点になるという表現でいくと、指標的にそれを示すものが明確にあるかです。それは、どこに視点を置くかでさまざま違ってきます。経済的に貿易額云々というのは指標として伸びてきている側面もあるし、人口も増えてきていますが、以前から私が申し上げているように、今回出している経済指標で見ると、この間停滞している、下がっているんですね。

そういう中で、最初から思っているのは、拠点都市をめざすという、この「拠点」、それがひとり歩きしている感がどうしてもぬぐえません。福岡市独自のまちづくりをめざすんだということで創造都市ということが出てくるならば、それはそれで、そう違和感ないんですが、交流というのがついても、交流拠点となると、今、委員が言われたように、ほかから見てどうなのか、実態とかなり乖離があるかと思うんですね。

経済的な面で拠点をめざすことが重点だとなってくると、よそからヒト・モノ・カネが来れば福岡は活性化するんだということだけになってしまっていて、実際にそこで暮らしている市民の感覚とまた大きなずれが出てくる危険性も出てきます。この「拠点」という表現は、ペーパーのほうにもその角度から意見を上げさせていただいているんですが、こういう表現ではない方法で、暮らしの質が高まることによって都市の活力が高まるという発想での文章構成にさせていただきたいという強い思いがあります。

○竹下部会長 アジアとの交流は、福岡市総合計画の前期から取り組んでくる課題だと思いますが、パブコメでどれぐらいのデータが得られるか非常に僕は楽しみにしています。十数年たっているわけですが、その間市民の意識がどう変わっていったのか、今回それをぜひ見たいと思います。

ほかにいかがでしょうか。はい、どうぞ。

○委員 指標の話ではないんですが、現状と課題のところで意見を言っているんですか。

○竹下部会長 何ページでしょうか。

○委員 50ページ、国際競争力の現状と課題です。もしくは、指標のところもそうですが、

当然、未来の話がされるんですけども、例えば福岡市がその前提となるべき国際力について何も述べてないんですが、どうされるのかなという気がしております。

近年、尖閣、竹島の問題が新しいニュースとして起きております。例えば福岡市が国際交流、もしくは国際協力を掲げるのであれば、当然、市としても、国際情勢も含めたいろいろな組織能力といいますか、そういったのも上げていかざるを得ないと思うんですが、そういうことにはあまり触れられていません。外務省のホームページを見ても、韓国も中国もデモなどいろいろなものが予想されるので十分注意をしてくださいと掲載されてますよね。そういうものを福岡市が企業にどんどん提供できる体制があるか、市民の皆さん、もしくはそういう者に提供ができるのかというと、多分今はそういうのはほとんどないと思います。これは民間にお願いをすべき中身なのか、福岡市として、行政として、サポートする能力がどうなのかについてあまり書かれてない気がします。そういったことは、この部会が検討する話ではないだろうと思うんですね。だから意見でいいんですかね。要望ですか。

○竹下部会長 どうですか。どうぞ。

○事務局（藤本） 今おっしゃられたように、行政がやるのか、民間でどうかというのは当然ありますが、アジアとの関係がどんどん深まってくると、よりそういった情報収集といったような能力は、それは当然、国の情報を受けて広く提供とかでももちろん構わないんですが、そういった情報の情勢を把握する力が地域にも求められているというのをおっしゃるとおりだと思いますので、少しこの現状なり課題のところをそれを何らかの形で入れるように検討したいと思います。

○竹下部会長 それでは、ほかにいかがでしょうか。

〔「意義なし」の声あり〕

○竹下部会長 ないようでしたら、全般にわたって何かご意見がございましたら、いただきたいんですが。はい、どうぞ。

○委員 ちょっと戻って申しわけないんですけども、38ページの目標4、「めざす姿」の公共交通の利用促進だとか、この中に書かれていることは全く問題ないんですが、2番目の「現状の課題」の問題意識のとらえ方が私の認識と違って、少し違和感があるのでコメントさせていただきます。

まず、②に「環境にやさしい乗り物である自転車の利用環境の向上」とあるんですけども、今、自転車は、歩行者との事故だとかそういうことが問題になっていると思う

んですね。自転車をよりよく使えるようにという問題意識よりも、歩道を自転車が走って歩行者とぶつかる、ここに問題意識があるので、そういう文言がないとないのではないのでしょうか。これだと自転車のためにやっている感じがするんですけども、むしろ自転車の問題は、歩行者のために取り組むべき課題だと思うんですね。そのあたりの意味が少しわかる表現にされたほうがよろしいのではと思います。

もう一点、その下の「また、近年」のところ、「公共交通の利用者は伸び悩んでいることから」とあって、だから公共交通の利用促進をしなければならないとなっていますが、伸び悩んでいることが問題ではないと思うんですね。環境のためになるべく車よりは公共交通に乗りましょう、あるいは、車に乗れない方々の足を確保しましょう、あるいは、自動車だとどうしてもまちが拡大をする傾向にあるので、コンパクトなまちにするためには公共交通を優先することが重要です、そういった問題意識だと思うんですね。だから、「利用者が伸び悩んでいることから」という一言で片づけられると、実際に今後のパブコメでどういう意見が出るかわからないですけども、少し誤解を招くような気がしますので、その辺ご検討いただければと思います。

以上です。

○竹下部会長 ご指摘のとおりですね。ありがとうございます。

○事務局（藤本） ご指摘のとおりです、検討したいと思います。ただ、先ほど、歩行者と自転車の事故については、34ページの安全・安心な生活環境のところに記述しています。ばらばらになっていて、わかりにくいところがあるかもしれないんですが、いずれにしる、どこかできちんとわかるように書きたいと思います。

○竹下部会長 どうもありがとうございます。はい。

○委員 49ページの施策の7-5の一番下、「福岡市の人口に占める若者率」とあります。こう起こしてある意味合いは何でしょうか。人口予測でも、10年後は結構わかるじゃないですか。けれども、ここにこう起こしてあるということは、最初のほうの案に「住みたい、行きたい、働きたい」という言葉があって、福岡市に愛想尽かずに若者が継続しているんだよということを示すために載せてあるんですか。

○竹下部会長 はい、どうぞ。

○事務局（藤本） 都市の成長部会で、大学の機能が福岡の活力に非常に重要で、大学が

あるので若者が集まる、人口の移動もそういった構造になっているし、そういった大学の若者を引き寄せる機能についての指標が何かないかというご指摘がございました。そういったご指摘を踏まえて、今、数字で出しているのはあくまでも今の傾向での数字なんですけど、こういった形でその指標を起したらどうかということでした。ここは、目標値をどうするかが非常に悩ましいところではあるんですが、今のところこういった形で挙げているところでございます。

○委員 わかりました。

○竹下部会長 よろしいですか。はい、どうぞお願いします。

○委員 42ページの目標5のところですか。都市像の案にも「アジアの交流拠点都市」と挙がっていますが、この「めざす姿」の最初の丸の「世界中から人々が集まっています」と言う前に「アジアの交流拠点として」といった一文を入れるだけでも、観光面においても福岡が拠点的な役割を果たすみたいなイメージを打ち出すことができるのではないのでしょうか。先ほど委員がおっしゃっていた内容も反映できますし、よろしいのではないかなと思いますので、ご検討ください。

○竹下部会長 ご指摘ありがとうございます。ほかにいかがでしょうか。

〔「意義なし」の声あり〕

○竹下部会長 それでは、一応ここで次のテーマに移りたいと思います。資料3の空間構成目標のところでございます。これは前回、時間が足りなくてあまり意見交換できていないので、ご説明をしていただいて、直ちに検討しようと思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。

○事務局（藤本） それでは、資料3の空間構成目標についてご説明をさせていただきます。

ここにつきましては、基本的に前回、一応ご説明はさせていただいたところですが、その後、身近な公共交通機関についての性格をという意見がありましたので、追加しているところがございます。それ以外のところについては、前々回ご指摘いただいたところは、前回、例えば58ページの交通体系のところ、「市、市民、交通事業者の協力で公共生活交通の確保を図ります」というような形で、ご意見は入れたところですが、その後については、前回、時間がなくて十分にご意見はいただけなかったところです。大きく変わったところはそのぐらいでございます。

あと、都市の成長部会のほうで、空間構成全体について、少し防災の観点を入れるようにというご指摘がございましたので、入れる方向で検討したいと考えているところでございます。

以上です。

○竹下部会長 はい、どうも。それでは、この資料3について意見がございましたら、よろしく申し上げます。はい、どうぞ、申し上げます。

○委員 前回も、後半に少し意見を述べさせていただいたんですが、まず地域の拠点と言ったときに、交通結節とか、いわゆる交通を中心とした考え方では、地域として福岡市を面でとらえたときに非常に無理があるのではないかと。逆に言うと、交通結節地があるエリア、ないエリアの二つの地域拠点をつくるべきではないかと、そういうご意見を言わせていただいたんですが、これにはまだそれは入れていないということで理解していいんですね。

○事務局（藤本） はい。

○委員 前回のときにあまり議論をしてなかったもので、意見の言いようがなくて困っていたんですが。例えば、交通がないところに対して、じゃあどういう考え方を持っていくのかは、こっちにもきちんと入れていただきたいなと思います。それが前回議論できなかったもので、先ほどは意見言えなかったんですが。

周辺部では人口が非常に減っていつている地域もどんどん出てきている現実があります。それから、校区単位でコミュニティを見た場合に、高齢化率が非常に上がっている地域が、福岡市の中でも増えてきています。防災にしてもそうですし、地域のコミュニティにしてもそうですし、逆に単身の若者が多い都心部のコミュニティの問題とかもあって、そういった課題を縷々（るる）言わせていただけてますけれども、そういうものを少しずつでもピックアップしながら、この10年間で空間としてどう持っていくんだという視点をこの中にも、ぜひ入れていただくべきではないかと僕は思っております。

コミュニティの話で言うと、不動産業界の関係の方がおられるかわかりませんが、単身の若者のひとり暮らし、ワンルームの平均入居月数ということをよく言われております。10年前では約20カ月住むと入れかわると言われていました。その地域に20カ月ですから、1年と8カ月ぐらいしか継続していないんです。それが少しずつ短くなってきて、今は18カ月ぐらいだという話を聞いております。そうなると、例えば単身が多いようなコミュニティでは、おそらくコミュニティ形成自体が物理的に難しいのかなということ

も当然とらえられます。今度は、高齢の単身者の方が集まってくる地域もあるやにも聞いておりますし、そういうものも、都市の交通形成という話だけでは済まされない問題が非常にあります。ですから、もう空間目標の中に入れていただいて、先ほどの総合計画、基本構想、基本計画の中に、区別目標とかという話の前にしっかりと空間目標の中でうたっていたいただきたいという要望です。あと、交通関係は多分、またいろいろあるでしょうから、以上で意見を終わります。

○竹下部会長 委員のおっしゃっている非交通系の地域拠点というのは、具体的に言うかどうか。確かに情報系の色が少し薄いというのは事実だと思いますが、どうでしょう。

○委員 例えば一つは交通結節地で何をどこまでカバーするのかという話がありません。例えば、野芥が一つ交通拠点地としてありますけれども、その背後にある山地のほうでは何を補完するのかという話もあまり明確じゃありません。前も少しお話をしたんですが、例えば鳥飼、野芥、大橋、この間がすっぽりあいてしまっているというイメージもあります。逆に言うと、南区は福岡市の中で唯一地下鉄が入っていないエリアになってしまいましたんで、そういうものを踏まえての考え方をということです。例えば高齢化率が高いエリアも、高齢化率であったり、単身世帯であったりのデータがありますので。

私の地元の話で大変恐縮ですけども、長住は都心天神から直線距離にして約4キロの地域で、高齢化率が30%になっているという現実があります。それから、高齢者が多いわりには区役所に行くバスがありません。南区は地下鉄がないことを考えると、公共施設に行きにくいわけです。区役所までがおそらく直線距離で2キロぐらいのところをバスで40分ぐらいかけて行かなければいけないといった、高齢者が非常に生活しにくい地域になってきています。

それから、高齢者しか残っていかないという地域になると、コミュニティを支える人材の問題が出てきます。どうしても高齢化率が上がると、前も少し言いましたけれども、何かあると、高齢者の方がさらに自分よりご高齢の方を見守っていかないといけないという状況になります。そういったときにコミュニティの活性化のために果たして何ができるのかという問題が現実としてあります。具体的な生活ということを考えていただくだけでもそうですし、逆に言うと、小学校のコミュニティも、おそらく崩壊しかけているということもありますので、そういうところも現実に入れていただきたいと思えます。

○竹下部会長 わかりました。最終案までにもう少し時間がありますので、この議論をどこかで行いたいと思います。

それでは、ほかに空間構成について、お願いします。

○委員 57ページ、市街化調整区域の土地利用の方向性ということで、いろいろ書かれております。現状、確かに緑地を守るための一定の規制が当然であろうと考えております。しかし、早良区の南部のほうでは、農業従事者の高齢化が進んで、耕作放棄地が出てくるといった状況になってくるし、それと同時に、今おっしゃったように地域コミュニティの維持が非常に難しさが出てきています。市街化調整区域ということだけで、ここに記載されたような状況でいきますと、将来的には市街化調整区域を抱えている地域については、もう人が住めないような状況になってしまうという問題があります。

そこで、私どもが今、地域で盛んにまちづくりの論議をし、取り組んでいるのが農地でない既存宅地についてです。農地でない既存宅地がたくさんあります。たしか4年前ぐらいだったと思いますけれども、既存宅地も制限されてしまって、今は市街化調整区域の校区においては新築することができません。また、本来そこに家が建てられる既存宅地も制限されてしまっているから、住みたい人たちがたくさんいても、その地域には人が住めない状況になってしまっています。言葉は悪いんですが、極端に言うと、限界集落になるような状況に既に来てしまっている状況です。ですから、この市街化調整区域の土地利用の方向性の中に、既存宅地の活用復活とかいう形で、もう少し具体的に取り組むという方向を出していただかせませんか。

天神周辺から見ますと、緑豊かな、自然豊かないい地域であるとは言えると思いますが、そこに住んでいる僕らにしてみると、いよいよ高齢化が進み、そして人口がどんどん減ってきて、2千5、6百の校区で、この10年間で200ぐらい既に減ってきているんです。新しく家が建たないから、お年寄りだけですから、自然減少でどんどん人が減っていくということです。そのことによって公共交通の減便、廃止、小学校の統廃合、こういう問題が具体的に出てきます。そういう状況にならないためにも、新しい、住みたいという人たちをつくるためには、土地の利用について一歩踏み込んで考えていただくことが一番大事じゃないかなと考えております。

この文言の中に、具体的に既存宅地をどうするかぐらいはひとつ考え方として出していただければと考えております。

○竹下部会長 どうも貴重な意見ありがとうございます。

それでは、ほかにいかがでしょう。

○委員 今のことに関連して、先だって、空間構成目標こそ、今後、福岡市が25年ないし10年のしっかりした計画の中で、行政側が強くマネジメントして取り組んでいくべきことではないかと申しました。時間の関係で言葉足らずで終わったんですが。

今の限界集落のお話も含めて、福岡市の方向性をきちんと委員の皆様の前でご説明いただいたほうが良いと思うんですよ。国土交通省が今からの都市の基本的な構造のあり方はエコ・コンパクトシティであるということで、福岡型のエコ・コンパクトシティについて、こういう限界集落を抱えている中で、なるだけ住みかえも含めて選択と集中をして、今からどうやって都市機能を維持させるのかをしっかりと検討していると思うんです。福岡市はこれまでの25年間もその方向性で進んできていると思うんですよ。その辺の認識を含めて当局のほうからご説明いただいたほうがしっかりわかるんじゃないのかなと思います。

例えば、なぜ市街化調整区域に対してそれだけ規制をかけているのかです。市街化調整区域が今後は営農の場や炭素吸収の場としてしっかりと維持するために今こういう空間をもって、そのかわり、先ほどご指摘があったように、日常生活がなかなか成り立たないような状況になっているので、例えば先ほど野芥の話が出たりしましたけれども、日常生活で駅周辺に来ていただいて、そこから営農の場までの公共交通機関をしっかりとネットワークで結んで生活不便地域や空白地域をなくしていくとか、そういうインセンティブを含めた都市のつくり方、構造のあり方をこれまですごく検討してきました。福岡市のシンクタンクであるURC（福岡アジア都市研究所）でも、今年3月に2年間かけた研究成果を「福岡市低炭素社会都市の形成に向けて」ということで発表しているんですね。その内容をしっかりと委員の皆様にもお話しされたほうが良いんじゃないのかなと思います。じゃないと、この空間目標についてはきちんとした議論ができないんじゃないかということ意見を意図として言わせていただきます。

○竹下部会長 わかりました。この議論は非常に大切な議論で、今日は時間的な制約があって少し窮屈なところがありますので、パブコメを終わってまたご意見がたくさん出るだろうと思いますが、また部会でもみたいと思います。そういうことで進めさせていただいてよろしいですか。

〔「異議なし」の声あり〕

○竹下部会長 次は区の計画で、この区の計画のところも非常にダブっておりますので、一応そういう形で進めさせていただきたいと思います。

それでは、空間構成でほかに。はい、どうぞ。

○委員 現状と課題のところでも国際競争力のある都市づくりが必要になっているという表

現がありまして、「めざす姿」でも、都心部のところで国際競争力を備えた高度な都市機能が集積していると示されているんですが、国際競争力というのはどういうことでしょうか。また、競争力が高い状態であるべきだと、どういう理由からそう言われているのでしょうか。

日常生活圏のところ、「小学校区単位を基本とし」とありますけれども、これは今、小中学校の統合が進んでいますよね。そういう動きが出てきている中で、小学校区単位を日常生活圏の基本とするということについて、今後どのような方向になっていくのかという見込みがあればお示してください。

三つ目です。交通ネットワークのところの2行目から、拠点内やその周辺では身近な生活交通が確保されることで云々とあります。前回も議論になって、先ほど委員からもありましたけれども、山間部やそこに近い地域の交通体系が少し希薄になってきていて、交通事業者が撤退することもある中で、この表現では拠点内やその周辺ということであんな地域まで目配りがされていない気がするんです。そこら辺はどういうとらえ方をしてあるのでしょうか。

○竹下部会長 それでは、三つあります。

○事務局（藤本） 国際競争力につきましては、もともと計画策定の趣旨なり総論のところでは言っていましたように、経済がグローバル化して非常にお金や人がグローバルに動くようになっているということで、投資先や活動の場所として、国際的な都市間の競争の中で選ばれる都市になることを国際競争力という形で表現しているところがございます。

校区につきましては、小学校の統合があった後でも、旧小学校区を基本的にコミュニティの単位としたままで動かしているところがございますので、基本的には現在の校区の単位ということで考えているところがございます。

あと、交通につきましては、58ページの一番下の「質の高い生活」を支える交通体系については、生活交通条例の考え方にありますように、市、市民等及び公共交通事業者の協力と連携のもとで日常生活を支える生活交通の確保を図るという考え方を示しているところがございます。

○竹下部会長 どうぞ。

○委員 福岡市が経済的にグローバル化の中で選ばれるということですが、選ばれたらどんな利点があるのかというのがよく分からないんですよね。投資が進んでいくというこ

とについて、じゃあ、それが市民にどう還元されるのかが明確ではないのではないかと思います。また、今の交通の分では、事業者との連携と言うけれども、今、連携がとれなくなってきているんですよ。はっきり言って西鉄さんはシビアに撤退するんです。利用者が少なかったら撤退、利用料金を上げて存続、あるいは福岡市が補助金を出してかろうじて存続ということで、これで連携を図ってと言っているけれども、撤退されたら、行政が乗り出さないと、交通体系は存続できないんじゃないかと思います。連携できる素地があるかどうか、実態を見ると極めて不透明だと私は思います。そういう可能性がこれから高まっていくのかについては大変疑問がありますが、何かお考えがあれば。1点目のことをもうちょっと踏み込んで説明いただければと思います。

○竹下部会長 どうぞ。

○事務局（光山） 1点目の国際競争力を含めた都市の成長みたいなところの考え方ですが、ここは基本計画の7ページの都市圏の基本戦略の根本の部分だと思っております。7ページの中段の（1）生活の質の向上と都市の成長の循環ということでございます。

このまま都市の成長がなかなかできないと、税収も含めて非常に厳しい状況になるというのは想定されております。しかし、福岡としては、ここの最初の丸に書いておりますように、福岡市の住みやすさに磨きをかけて、市民生活の質を高め、その高い生活の質が人と経済活動呼び込んで都市の成長を実現させるんだと。それによって税収も増えてきて、その結果で、また生活の質が高まるという好循環をつくっていくんだと、そういう大きな都市経営の考え方を持っております。それに基づいて、グローバル化の中の都市間競争も含めて、福岡が選ばれる都市になっていくということは、魅力も含めて、人と経済活動呼び込んでいくという、ここは非常に大きな都市経営の哲学として、今回の基本計画の中の大きな哲学として、出させていただきます。

確かに、市民生活の質を高めていくことは非常に大事なことだと思っておりますが、それをやっていく上での税収もきちんと確保していく必要があると思います。そういったところをしっかりと成長させながら税収も増やしていくという循環をしっかりとっていくことによって継続的な行政経営ができると、今回整理させていただいているところでございます。

○竹下部会長 どうぞ。簡潔にお願いします。

○委員 今の認識については、私は異論があります。都市の成長ということで都心の開発、

あるいはそこに企業を集積させる、人を呼んでくる、企業を呼んでくる、これが福岡市の税収増につながるかといったら、つながりませんよ。それは全部中央に吸い取られていくんです。呼び込むために投資したものが、税収に還元されて市民の暮らしを高めるものに使われてこなかったことは、この十数年間の実績を見ても明らかです。ですから、そういう方向で組み立てていくのはよろしくないと思います。

○竹下部会長 どうもありがとうございます。

○委員 先ほど言うのを忘れておりまして、追加をお願いします。

空間目標のところに、交通とかいろいろな課題を書かれておられます。交通にしてもそうだし、生活にしてもそうだしですね。ただ、その中で、この空間目標がただの位置どりの話に終わってしまっているんじゃないかなと思います。

こういうサービスを一つつくることによって、例えばこの拠点、もしくはその周辺と言ったときに、どれぐらいの市民の皆さん、いわゆる人口割合として、人口分布としてカバーするのかといった考え方がこの空間目標にあまりない気がしています。例えば駅一つでどれぐらいの人たちをカバーするのかとか、だから、ここにこの位置を張りつけているんだとか、ここに届かないところはとするんだとか、そういう考え方を面にも入れていただけたらと思いますので、よろしくお願いします。

○竹下部会長 では、要望として受け取ります。ほかにいかがでしょうか。

○委員 これまた用語の関係ですけれども、空間目標のところに「活力創造拠点」という位置づけがされています。しつこいようですが、基本戦略で「アジアの創造都市」といった場合に、この「活力創造拠点」が核になるという解釈になるのではないかと思うんですが。そういう解釈でいいのかという確認。要するに言葉が錯綜しているので。

○事務局（藤本） すみません、ここの「活力創造」という表現は、経済活力を創造する拠点ということです。あと、いろいろな高次都市機能ということですので、当然、都心部が活力についても担っていくことがありますし、都心部と活力創造拠点が主に担っていくという形になるということです。

○委員 ということは「活力創造」というまた新たなキーワードがあることになるんですか。

○事務局（藤本） キーワードというか、活力を創造するというを日本語として使っています。

○委員 ただ、基本戦略でも都市活力の創造都市なんですね。

○事務局（藤本） 基本戦略で生活の価値と経済的な価値を創造するとなっていますが、ここでの活力創造という言い方は、生活の価値ではなくて、経済的な価値を創造する拠点ということです。

○竹下部会長 ちょっと玉虫色的な。ちょっと気をつけましょう。

それでは、ほかにいかがでしょうか。

〔「意義なし」の声あり〕

○竹下部会長 ないようでしたら、今日の最後の議題です。前回もちょっと途中で切れてしまったような感じだったんですが。資料4の区のまちづくり目標等を含めて、説明いただけますか。

○事務局（藤本） それでは、資料4の区のまちづくり目標です。区のまちづくりの目標をここに入れるのかどうかでかなりご議論いただきましたので、ここの説明に入る前に資料5で、今までの区における計画等の経緯についてを簡単にご説明したいと思います。

資料5をお願いいたします。区の計画等の経緯についてです。区別の計画は、昭和63年策定の第6次基本計画（現在の基本構想の最初の基本計画）において、区別計画という形で策定しました。

構成としては、第7次基本計画も基本的な構成は踏襲しています。

そして、目次の下に「第6編区別計画の扉の説明」と書いてありますが、ここで区別の計画の説明がございます。いわゆる市民自治の充実、市民生活の利便性の確保のために行政区政をスタートさせ、実際に都市化がどんどん進行していく中で、地域ごとにいろいろな課題ができてきたり、新たな地域社会が生まれてきたりしている、としております。そこで、地域の課題を的確に把握して総合的に施策を推進するために区としての計画が必要だ、としております。

そして、第7次の基本計画の中では、それに加え、地域のまちづくりにおいて、そこに住む住民が主体となって共働することが市民自治本来の姿だとしておりまして、市民参加が重要だということで、そのための目標という位置づけが加わっております。そういった市民と行政の共通のまちづくりの目標ということで区別計画を策定する、としております。

そして第8次の基本計画におきましては、全市の計画と区の計画を分け、全市編と区の基本計画ということで別のものを策定した形にしております。

そして、今回の計画については、基本計画は市民と共有するためにコンパクトでわかりやすいものにし、それから、基本構想から実施計画まで同時に一つのものとして策定していこうということで、区のまちづくりの目標という形で、基本計画の目標の一部に組み入れたところでございます。

それでは資料4をお願いいたします。1ページめくっていただきまして59、60と書いておりますが、ここに今回の計画における区のまちづくりの目標についての説明を追加しております。前は区の目標ということで、単に区ごとに切っただけということでご説明したところですが、今までの経緯も踏まえ、また、前回の皆様のいろいろなご意見を踏まえ、区でまちづくりを進めていく上の目標にしようということで、「区のまちづくりの目標」としております。

そして、福岡市全体としては広域的な役割が重要になりますが、市民の暮らす地域においては、地域ごとにさまざまな課題があります。そして、福岡市が生活の質を向上させて、都市の成長にもつなげていくためには、地域の課題を的確に把握して解決するとともに、地域の資源を生かして魅力を高めていくことが必要だと思います。そこで、市民及びさまざまな主体が地域のまちづくりに取り組むために共有する目標ということで、区のまちづくりの目標を定めます、としております。

そして、全体としてめざす姿が「自治と多様な共働によって区ごとの目標が実現している」ということで、「市民生活に身近な地域の課題解決に向けた取組みが進んでいます」「地域の資源が活用されて個性的な地域づくりが進んでいます」そして「福岡市における拠点となっている地域については、全市における役割を適切に果たしています」ということとしました。さらに、それぞれ各区のところに書いておりました人口、位置については、このページに各区の概要ということで、面積、人口、人口推計をあわせて記載しております。区ごとの位置については次の60ページに地図を追加しているところでございます。

そして、区ごとの目標は61ページ以降にそれぞれ書いております。これは前回ご説明したとおりでございますが、前はこれの中についてのご意見をいただきませんでしたので、本日はこれの中についてご意見をいただければというふうに考えております。

説明は以上でございます。

○竹下部会長 それでは、これに関して意見を求めます。どうでしょうか。

はい、お願いします。

○委員 各区別の話よりも、まず全体的な意見として言わせていただきたいのが、各区で出している指標も目的もばらばらでよくわからないということです。

例えば東区さんは、事故とか階層別人口という数字を出されていますし、博多区は交通事故だからこういう形で区として共通のデータを出すのかなと思えば、中央区は共同住宅の割合、南区は人口構成、城南区は人口推計や高齢化率が出たりしています。区ごとにばらばら過ぎて何をどう見ていいのか、各区ごとの話がよくわかりにくいというのが一つです。例えば区の基本データとして、各区でそれぞれ共通のものを出していただいたほうが、各区の違いとか特性とかが比較しやすいなと思います。

それと、できればですけれども、いわゆる防災も含めた安全・安心の話、子育ての話は当然総合計画のほうで網羅されている上でのこの計画だと前々からお聞きをしておりますので、そういうものよりも、区の特徴、状況、課題に応じた区の目標をそれぞれに上げていただければと思います。市のほうでも区のほうでも、同じことをしますでは、何か同じことをただ重ねている印象にもなります。実際、生活には必要なことで、補完すればいいわけですから、もっと区の特徴をもって区のまちづくりがどうなのかについてもっと真剣に、この区の目標の中で区役所が区政として出していただいたほうがいいのかなと思っております。

区ごとの個別の話も言っているんですか。

○竹下部会長 ええ、お願いします。

○委員 では、ちょっと南区を言わせていただきます。

まず南区、67 ページですけれども、3の「現状と課題」の丸の三つ目、大牟田線から離れた地域の主な公共交通機関であるバスの利便性が非常に低いと書いてありますが、先ほど言ったように、地下鉄が唯一入っていない区だということを南区の特性として挙げるべきだろうと思っております。

それから、人口減になると非常にバスの便数が減るといった中で、現実、早良の南部、山沿いとかでなくても、南区の中でも実際に減便が起きているという現実がしっかりあります。別のデータでは、南区が約24万人の人口を抱える中で、おそらくその半分、約12万人程度が今の西鉄大牟田線を利用できる駅圏人口だということで、逆に言うと、残りの12万人が鉄軌道を利用できない、バスでしか生活ができないエリアに住んでいるということです。もうちょっと、そういう分析を区の中でしっかりと落とし込んでいただきたいなと思っております。

その考え方から言うと、早良区は、まちづくりの方向性として北部・中部・南部ということで非常に分析されてデータ化されていて、私は早良区が区の中で一番まちづくり

の見方としてはわかりやすいなと思います。先ほど委員さんがおっしゃられたように、農村というか山村というか、市街化調整区域というエリアの違いによるコミュニティの問題、高齢化の問題、交通の問題があるということです。それから、中部では、拠点地域の野芥を中心としたいろいろなまちづくり、交通問題、コミュニティ問題があり、それから北部では、地下鉄もあって、福岡市の中でも西部の拠点となるようなエリアでありと、されています。

そういった考え方が各区から、全体として統一感のあるようなもので出していただくと非常にいいかなと思います。

意見です。

○竹下部会長 はい、どうぞ。

○委員 区のまちづくりの目標の素案のつくられ方に、まず問題があるんじゃないかなと思います。というのも、まず見開き2ページで各区のことをまとめろ、表現しろとあって、これは非常に厳しいし、無理だなと思うからです。現状、福岡市の総合計画をついている段階なのに、もう区の計画が出てきているということに結構違和感があります。今、福岡市の総合計画として目標1から8まで出てきているにもかかわらず、こちらの区のほうにはそれが一切見えないので、全くつながっているように見えないんですね。おそらくこれは、各区で考えていただいて、区ごとに出てきた情報がここに並んでいるだけなのではないでしょうか。ですから、そもそもこれがつくられる順番がちょっとおかしいんじゃないかなと思います。内容に関しては、非常に上手にまとめられていると思うんですけども、ばらばらになっているというのは、そういったところから出てきているんじゃないかなと思います。

これも意見です。

○竹下部会長 意見ということですが。はい、どうぞ。

○事務局（藤本） つくり方について、基本的に、福岡市という一つの自治体で基本計画をつくる中で、その行政区としてはどうかということです。別々につくるという考え方はもちろんありますが、全体はこうします、部分はこうしますと同時並行でするのはおかしくないだろうということで、今回は同時並行ですしております。当然、少し全体の話が先行していて、その8つの目標を受けて、あとは各区でのいろいろな活動を踏まえた形でつくっていますので、少しばらばらに見えるところがあるんですが、全体を踏まえずにつくっているわけではありません。

あと、都市の成長のほうの部会でも少し議論にはなったんですが、やはり統一性というか、つながりが大事ということと、区それぞれの独自性が大事だということと、両方のバランスがございますので、今のところは、全体を見ながら区の独自性も大切にしつつということで、今このような状態になっているところでございます。

あと、先ほど委員からお話しがあった共通データの見え方とかを少しそろえるべきではないかというご意見は、都市の成長の部会でもいただきましたので、そのあたりは少しやっていきたいと思えます。

○竹下部会長 それではどうぞ。

○委員 まず市全体のイメージがあって、それから各区の特徴を生かした区の目標をつくらせたら、こんなにたくさんの目標を挙げなくてもいいのではないかなという気がちよつとします。

例えば、東区のまちづくりの目標は「すみやすい、あんしなまち・東区」で、その下の丸にも「安全で安心して暮らせるまち」となっていますが、次の博多区になると「お互いが支えあい安心して人が暮らせる」とか、私は逆に、じゃあほかの区は住みやすくない、安全なまちでなくていいのかと考えてしまうんですね。ですから、安心して安全で皆が助け合ってとかは、どこの区でも目標として掲げられるべきことで、当然保障されているべきことで、そういったことを区の目標として挙げる必要はないんじゃないかなと思うんですよね。だから、その区その区で特徴的なものをピックアップして、少なくとも目標として大きく掲げてはどうでしょうか。そして、具体的なまちづくりの方向性のところで、区の現状と課題とかに応じた方向性を出されることは構わないと思えますけれども、私はキャッチフレーズにちょっと違和感を覚えますね。

○竹下部会長 どうぞ。

○事務局（藤本） 今回、福岡市としてそれぞれの区をどうしていきますという区別計画から、全体の基本計画とは別に、区のまちづくりの目標をとさせていただきました。実際に区の住民の方、そして地元の事業者の方と一緒にまちづくりを行う場面を考えたときに、例えば、では東区をこういうまちにしていこうという目標といったイメージでつくっているものですから、市民の方がまちづくりに携わる上で必ず必要な「住みよいまちにしましょう」「新しい活力を生み出すまちにしましょう」という、どこの区にも出てくるようなことがどうしても入っているべきではないだろうかということで、今このような構成にしているというところです。ただ、区ごとにそれぞれ特性がもう少し出せ

ないかというご意見は、都市の成長部会でもいただいていますので、できるだけ区ごとの特徴、魅力が出せるように考えていきたいとは思っています。

○竹下部会長 どうぞ。

○委員 まさしくおっしゃるとおり、もともと前提で、基本構想から基本計画は絶対的に福岡市の全体があって、あと区の課題や問題をどうしましょうかというのがこの中身なので、それを統一して何とかというのは、私はするべきではないと思うんです。ただ、じゃあ東区は「すみやすい、あんしんなまち・東区」というタイトルが来た場合には、皆さんが疑問に思っているように、今のようなご質問になってしまうと思うんです。例えば、城南区であれば「大学が集積するまちだから、それを生かしたまちづくりにします」といったタイトルであれば、それはその区の事情に合った、その区の特性を生かした今後の方向性となるんですが、「豊かな暮らしがあるまち・城南区」といったタイトルでは、そういうご意見にならざるを得ませんし、ばらばらじゃないか、比較できないじゃないかということになってしまうと思うんです。

であるならば、そこはぜひ区それぞれの問題と課題と、それから発展するところについて、ここに力を入れて取り組みたいということで出すわけですから、むしろタイトルは、もしかしたら要らないのかもしれないし。

ぜひ、ちょっとつくり方、考え方として、ご検討いただけませんか。

○竹下部会長 はい、ほかに。はい、どうぞ。

○委員 今のご意見に賛成です。

一つ前からやっていて気になっているのが、区の単位はよくわかるんですけども、区と隣接する他の区との関係だとか、福岡広域都市圏として、ほかの市町との接点が各区あると思うんですが、その関係性に関しても、僕は指針といいますか目標が要るのではないかということです。例えば、私は今、大学が南区にあるのですが、那珂川町を考えただけでも、博多区と南区に接していますし中央区にも関係してきます。ですから、例えばあの川を考えると、一つの区や市がやるんだよということではなくて、区と区が接するところでお互いの力を集めるというか、そういった視点も僕は要るのではないかなと思います。行政区単位だけで閉じてしまっているのがすごく気になるところです。

○竹下部会長 どうぞ。

○委員 1点ご意見を申し上げたいと思います。今、各区のまちづくりに対するいろいろな目標と現状と課題ということですと出されておりますが、早良区だけを見ましても、10年前に出された前回の基本方針とほぼ同じようなやつが幾つか出ているというふうに理解をいたしております。

それと、前回確認して、そういうことで取り組んでいこうという方向が決まっています、それを今回なおかつ上げなければならないということになれば、その間の取組みの総括を1回きちんとしなければいけないのではないのでしょうか。その上で、こういう問題があって、当初の目標が達成できなかったということで、今年次の方針に再度その提起していくという形でやらないと、以前やっていたものが全く同じ文章で残っていて、ではこの間何をしていたのかという問題になってくるんじゃないかという心配があります。

具体的に申しますと、早良区の場合は、地域交流センターの早急な整備が望まれておりますと記載されておりますが、全く同じようなことが前回提起されておりました。早良区が一番大きな課題として、区を挙げてずっと行政にも働きかけをしてきていたんですけども、今日まで早良区だけが取り残されてしまっております。じゃあ、なぜ今日までこれができなかったのかを1回きちんと総括して、そういう現状と課題をきちんと踏まえた上で、今回のこの計画の中に実現するための取組みを具体的にどうしていこうかと区を挙げて、あるいは市を挙げて論議していかないと、「やはりできなかった」と同じことで終わってしまうんじゃないかという心配があります。早良区が一番大きな課題である地域交流センターを中心に、文化・スポーツ活動の市民交流の輪が広がるような場としての施設をきちんとつくる、そういうことにしていかなければならないんじゃないかなという気がしておりますから、ぜひひとつ、この10年間なぜできなかったのか等の総括を1回きちんと出すべきではないかという思いがあります。

以上です。

○竹下部会長 どうでしょうか。

○事務局（光山） 確かに、現状と課題の10年前につくったプランを含め総括した上で今回のプランがあるというのが基本かと思います。今回の基本計画は、できるだけシンプルにつくっていこうということもあって、先ほどもありましたように、2ページの中に整理させていただいておりますので、なかなか表現も含めて十分ではないところもあるかもしれません。地域交流センターにつきましては、当然、早良区が、大きな課題として、縷々（るる）取り組まれてきているところがございますし、まちづくりの方向性の中にも今回明確に書かれておりますので、今ご指摘にありました総括みたいな話につい

ては、このプランの前提として少しご説明を別途させていただくといった方向で、少し検討させていただければと思っております。

○竹下部会長 はい、ほかにいかがでしょうか。

パブコメ3点セットで、区の計画もパブコメに出すんですね。

○事務局（藤本） はい。

○竹下部会長 そういうことなんです。はい、どうぞ。

○委員 これは今の意見をもとに、今からつくりかえたりできるんですか。

○竹下部会長 どうぞ。

○事務局（藤本） 今日いただいた意見と、それから4回目の都市の成長の部会でいただいた意見で、可能な範囲で修正させていただき、そして両方の部会長、副部会長、それから総会の会長、副会長で協議する相互調整委員会という場を設けさせていただいていますので、そちらで案として調整させていただいた形で、第2回の総会でお諮りさせていただきます。その総会の場で確認いただき、それでいい、そこだけはちょっと直してとかということも、そこで言ういただければと思います。

○委員 確かその総会が31日でしたよね。厳しくないですか。ちょっと今までのご意見を聞くと、一からガラガラポンにしたほうが早いようなご意見が多かったように思うんですけれども。

○竹下部会長 この原案の作成がどういうプロセスかも、一つあると思うんですね。

○委員 いや、大丈夫なのかなという疑問が一つあります。意見をもってある程度組みかえをするということであればできれば、先ほど皆さんからは、結局同じぼやっとしたものを出しても区の特徴がわからない、区の課題がよくわからないのを何とかしては、また、課題が上がっているものをずっと延々と引き継ぐのであれば総括が要するというご意見だったんだろうと思うんですけれども、それを踏まえてもう少し、きちんと各論になる文章を入れて、ぼやっとしたものを減らしてもらえないですかね。南区であれば、「まちづくりの担い手や活動の場づくりの支援」「子どもを見守り育む仕組みや環境づ

くり」「高齢者をはじめすべての人の健康づくりと福祉の向上」と、あまりにも漠然としています。こういったことは基本計画の項目のような話で、方向性でしょうから、では南区としてはこれを踏まえてどうするんだみたいなものをもうちょっと出してもらわないと、課題の解決にはならないと思います。短時間ではあるんですけども、そういうのをもう少し努力していただきたいなと思います。

以上です。

○竹下部会長 どうぞ。

○事務局（藤本） この基本計画の目標というところで、どこまで書くかですが、これとあわせて実施計画を当然やっていきまして、その中ではそれぞれの区にどの事業がという話になっていきますので、基本的には基本計画全体のほうの政策目標と同じぐらいの並び、ご指摘いただいたような方向性までを決めたいと思います。そして実際何をやるかあたりは実施計画の中で検討してこうと考えているところです。ただ、可能な範囲で、もう少し、方向性でも具体的な表現とかは検討はしたいと思います。

○委員 方向性だけの話であれば、かえって区の計画に入れる必要がないんじゃないかなと思うんですよね。というのが、当然、基本構想を踏まえ、基本計画をつくり、そして基本構想・基本計画を踏まえたものが実施計画のはずですから、大きな方向性というのは市の中でうたっているわけですから、わざわざ区の中で別にうたう必要は特になんじやなかろうかと思います。その大きな流れを踏まえた上で、区の特長としてどういう課題をどういう方向で検討するのかが、区の目標であるべきではなかろうかと僕は思いますが、いかがでしょうか。

○竹下部会長 はい。

○事務局（光山） 確かに、まちづくりの方向性だけでは何をやっていくかが非常に見えづらいというところがあって、それは全体の基本計画のところでも同じような議論になっております。先ほどから、区のまちづくりの目標の意義みたいなものをご説明させていただいております。大きな全市的な方向性は基本構想・基本計画の中で整理させていただく、ただ一方で、各区の地域の課題があって、それぞれの対応というのは、一定、全市的なところではフォローできないところがあるんだと思っています。やはり具体的な事業、何をやるかについては、実施計画に委ねていく形にならざるを得ないと思いますが、なかなか具体が見えないので、議論できないというのもよくわかるんですが、我々

としては、この基本計画の中で区の特長や課題に応じたまちづくりの方向性を一定整理させていただいて、今回の基本計画の中の目標として掲げさせていただきたいと思っています。

○竹下部会長 どうぞ。

○委員 ちょっと最後に意見だけ。

おっしゃられることもよくわかります。基本的に基本構想の中で区の計画を打ち出すことは、僕は必要なこと、大事なことだと思っています。この区の計画を否定しているわけではないんです。しかし、福岡市として、もうこれだけ区政を長年やっていますし、行政の皆さんも、それは重々わかっていると思います。そうであるのであれば、各区の特長を踏まえた、例えば健康づくりとは何なのと言ったときに、南区ならば、ため池を人がウォーキングできるようにするといった公園整備に力を入れるのが「高齢者をはじめすべての人の健康づくりと福祉の向上」じゃないのでしょうか。

私は、もう少し区の特長を挙げたものが区の基本計画に来るべきなんじゃないかという意見なんですよね。

今出してきたものを 31 日までに全部やりなさいというのは多分ちょっと難しいところもあるだろうと思いますが、区政をこれだけ何十年という長い間やってきて、多くの市の職員さんたち、それから地域の皆さん、コミュニティを支えていただいている皆さんも含め、当然いろいろな情報交換があり、長年のデータの蓄積があるはずですよね。だから、そういったものを区の基本計画として入れていかないと、おそらく非常にわかりにくいものとなって、結局では区の基本計画とは何なの？ 区の基本計画と市の基本計画との整合性は何なの？ 同じことを同じようにやっているのであればどうなの？ 順序は？ とかいう話になるんだろうと思います。ですから、そういう意見を踏まえた上で、非常に短い時間ですが、何とか区の特長を見せる区の基本計画になるようにご努力いただきたいなど、意見で終わらせていただきたいと思っています。

○竹下部会長 はい、要望はよく理解できました。

ほかにいかがでしょうか。はい、お願いします。

○委員 区の計画の意義は二つあると思うんですね。

まず、資料の 2 番目と 3 番目あたり、特に 2 番目で、全市的な議論の中でいろいろな課題、目標が出てきましたけれども、区としてはどれを重点的にやるのかという各課題、目標のプライオリティーですね。この区ではここに重点を置きます、これを優先的

にやりますという、そういうふうなものをきちんと書くことが一つ意義としてあるのかなと思います。

あるいは、各区の特徴を書くということであれば、例えば、この素案を見ていると、どの区にも出てくる安全・安心とかいうものはまとめて共通項目として出しておいて、その区の特有の課題、設定すべき目標だとか、共通でないものだけを書くというやり方もあると思うんですね。

その二つ、どちらがいいのかちょっとわからないですけども、何のためにこれを行っているかのがわかるようにしたほうがいいんじゃないかなと思います。今の素案をそのまま生かすならば、おそらく前者のほうなのかなと思うんですね。各項目のプライオリティー、ここの区ではここに力を入れているんですということがわかるようなものであれば、大きな変更なしにいけるのかなと思います。

ご検討よろしく願いいたします。

○竹下部会長 はい、どうも。

お願いします。

○委員 まさしくおっしゃるとおりで、どのような形でこれでパブコメをとろうと思っ
たらっしゃるか知らないですけども、これでパブコメをとったら、多分、自分の周りの
コミュニティの問題点が上がってこないのではないのでしょうか。それを集約して何の意
味があるのかなと思います。でも、この方式で出されたら、その回答も有効なはずで
すよね。先ほど言われた安心・安全だとかいう部分は、もう基本計画の中でうたっている
わけですから、これまで各区の問題点だったところ、それから発展させていきたいとこ
ろを重点的に、むしろ逆に考えたら2ページは多かったのかもぐらいの考え方で絞り込
んでやるほうが、パブコメをとる際にももしかしたら上手に集約できるかもしれないで
す。

以上です。

○竹下部会長 委員にまとめていただいたみたいだな。

どうぞ。

○委員 すみません、中身を十分に検討できずに意見を言っているかもしれませんが例
え、例えば東区の「すみやすいあんしんなまちづくり」という言葉を上げたのは、例
えば「現状と課題」にある「犯罪や交通事故の発生件数は減少件数にあります」とつな
がりがあるんですかね。要するに、東区は、人口割合から考えると犯罪、交通事故の件

数が多いとかいう現状があるんでしょうか。もしそうであって、「現状と課題」を述べて、目標として「すみやすいあんしんなまちづくり」と上がってきているのであれば、それがわかるような統計的な数字の説明が必要になるんですね。でも、この61と63の表を比べてみても、私たちが見る限り、特に東区の交通事故、犯罪の認知件数が高いということはわからないんですね。現状と課題の中で浮かび上がってくるものから、まちづくりの目標が見えるようでないと区の目標としては説得力がありません。委員の皆さん方がおっしゃっているように、これをパブコメにかけても、何と答えていいのかわからないんじゃないかみたいな話になってくるのかなと思います。現状と課題の書き方をきちんとすれば、生きてくる目標もあるのかなという気がしますので、ご検討ください。

○竹下部会長 では、どうぞ、お願いします。

○委員 まず、区のまちづくり目標は、基本構想・基本計画と比べると、つくられるアプローチが真逆だなと思いました。基本計画のほうはまず目的とか都市像から始まって、過去の時系列があって、その出来事があつてのまちづくりの計画、構想というトップダウンなんですけど、区のほうはボトムアップ式につくられています。時系列で言うと、現状からスタートしているので非常にずれがあるような見え方になっています。

ですので、一応、僕の意見としては、福岡市としての目的や都市像は、もうこの基本構想でうたっているんで、それにおける各区の位置づけ、目標みたいなのが前段階であって、それから区の概要があつて、そこで初めてまちづくりの目標が出てこないといけなのではというものです。現状は、つながりが全く見えないままなので、安全で安心が共通で全部の区に入っているとといった問題が起きるんじゃないかなと思っています。

○竹下部会長 どうも貴重な意見ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。はい。

○委員 今のお話ですけれども、例えば安心・安全でも、緑地帯が非常に深くて危ない地域と、都市部における人的、防犯的な安心とでは質が違うと思うんですね。ですから、目標にもレイヤーがあつて、おそらく区の目標には、その質の違いの安心・安全、そのつながりであるとかいうところのもう一つ下のレイヤーの話を入れられないといけないのでしょうか。方向性が非常に丸まっていて、全体論を言っているようなことになっているから、同じように見えてしまうんだと思うんです。ですから、それは多分考えられているのではなかなと思うんですが、もう1階層か2階層下げたところで方向性を示し、それを引き出していくほうがいいんじゃないかなと思いました。

○竹下部会長 はい。ほかにいかがでしょう。

はい、ではお願いします。

○委員 一番最初だからか、先ほどから東区のことが出ていますけれども、東区の中でも漁村部もありますし、都市部もありますし、校区ごとでも随分違いがあって、一概に言えないと思います。それはどこの区でも同じだと思います。だから、東部とか北部とか、そういう感じでくくるのも一つですけれども。

東区を見てみると、私は、課題とすべきこととか、これからの話は全部出ていて、それにしっかり取り組みますと書いていますので、これを一つひとつ見たらどれも修正すべきでも何でもないと思いますけれども、今度の9日の会議（ふくおか未来カフェ）では、きっと、いらっしゃる方はそれぞれ自分の地域の身近なことを課題でおっしゃると思いますので、さっきから出ているように、もう一つ絞った課題、目標というものがこの中に加わると、すごくよくなる気がします。

○竹下部会長 はい、どうも。

ほかにいかがでしょう。はい。

○委員 先ほどのボトムアップとトップダウンの話も、レイヤーの話も、皆さんの意見にすごく賛同するんですけれども、私はこの区のまちづくりの目標を見て少し安心した部分がありました。住民レベルの発想でいくとやはりこういう目標が出てくるんだなということなんです。区の目標では、人を大切にするとか、障がい者の方の話だとか、いわゆる弱者の方の話がいっぱい出てくるのに、基本構想と基本計画では、冒頭に委員がおっしゃったように、一人ひとりが尊重されるというか、人権が尊重されるという部分が薄いんじゃないかなと改めて思った次第です。

ちょっと全体の話になって申しわけないんですけども、その気持ちをまた深めたところなので、一言申し上げたいと思います。

○竹下部会長 どうも。

ほかにいかがでしょう。はい、どうぞ。

○委員 意見のまとめ方じゃないかと思うんです。そもそも、今回、市の取組みとして私がすごく評価しているのは、こういったたくさんの方々の意見をまずまとめて基本構想に生かそうというところなんです。それがすごく新しい試みだと思っているんですけれども、

パブリックコメントも含めて、各区役所から出てきた意見があつて、市の意見としてまとまっていくという、下から上がってきた意見が上でまとまっていくという考え方なのかと思つていま。今までのような、市の考え方を各区におろして、それを細かい内容におろしていくというやり方ではなく、下からの意見を上げていくというか、下からというのが正しいかはわかりませんが、そういう意見の取りまとめの仕方がそもそも今回新しい取組みなんじゃないかなと思つていま。

そういうこと言うと、各区で出てきた意見の中には共通項が結構あつて、例えば「集中豪雨や地震など災害への対策として防災危機管理体制の強化を急ぐ必要があります」というのは各区が出していることです。それにもかかわらず、例えば空間構成目標の中に反映されているかという、そこまでは反映されていません。パブリックコメントもそうだと思うんですけども、新しい試みだと思つるので、これからパブリックコメントが返ってきたときに、市の中でどういうふうに反映されていくかという、まとめ方をぜひとも考えていただきたいと思つていま。今までは、区に市の意見をおろしてまとめたのを、区から上がってきている各意見を市でどうまとめるかというまとめ方ですね。それをもう一回考えてもらったほうがいいんじゃないかと思つていま。

ちょっと広い意見で申しわけないんですけども、お願いします。

○竹下部会長 どうもありがとうございます。

いよいよ時間が迫つてまいりました。今日確認したいことが幾つかあります。まだ総合調整等々踏まえますが、パブコメの原案として資料2にあります総合計画の素案については多々意見が出ました。また、パブコメ以降も少し意見交換をやらなければならない課題も出ました。しかし一応、パブコメの原案としてこれで出すということでしょうか。いろいろ意見の違いがあつたのは事実ですが、よろしいでしょうか。

それから、資料の3になります空間構成図、これにつきましてもかなり貴重な意見をいただいておりますが、一応おおむね原案として出すということでしょうか。

はい、どうぞ。

○委員 このまま原案というのではなく、事務局で可能な限り修正して、そしてあとはご一任という形で取りまとめられたらよろしいんじゃないでしょうか。

○竹下部会長 もちろん今日出ていました意見は当然反映させます。

それで、今議論いただいております区の計画では、かなり根本的なところが指摘されているわけですが、これについては部会長と、それから今日はちょっとお見えになっていませんけれども副会長預かりということで一任していただけますでしょうか。貴重な意見がたくさん出ましたので、当然、いろいろやりとりをさせていただきたいと思つていま。

すが、よろしいでしょうか。

〔「異議なし」の声あり〕

○竹下部会長 それでは、以上で確認させていただきまして、次回等々のアナウンスありましたら、事務局からお願いします。

○事務局（藤本） 次回は第2回の総会ということでございます。8月31日金曜日の15時半から18時まで、市役所の15階講堂になりますので、よろしくお願いいたします。

3 閉会

○竹下部会長 それでは、ここで終わらせていただきます。どうもありがとうございました。

閉 会